

8 遊び方を聞こう

指導者（ ）

学 習 活 動	時間	・留意点 ○教材例
前時の復習 ・教科カードを見て教科名を言う。「見て」「聞いて」などTが指示し、Sはそのジェスチャーや行動をする。	5分	○前時で使用した絵カード等
<input type="checkbox"/> ①「できる」「できない」を言う ・Tがお手玉を楽しそうにやる。Sがやりたそうな様子だったら、次のように言う。 T：い？ いれ？（「入れて」と言えるようにヒント） S：入れて。 T：どうぞ。 S：（お手玉をする） T：（Sができれば、すごいという表情で）できる！（できなかつたら、残念そうに）できない。 ・けん玉でも同様に行い、「できる」「できない」の意味を理解できるようにする。 ・遊びやスポーツの絵等を見せ、「できる？できない？」とTが質問し、Sが答える。 ・イラストを使用して「ドッジボール、できる」、「なわとび、できない」などの会話をする。	15分	○お手玉やけん玉など室内でできる遊びの道具 ○「こどもの日本語ライブラリ」→指導計画例→低会話編21絵カード「遊び」 ○『にほんごをまなぼう』P29 ・母国でよく行われているスポーツや遊びを調べておき「クリケット、できる？」等と話題にするのもよい。 ・その教室に別の児童生徒がいれば、その児童生徒を相手に会話することもできる。
<input type="checkbox"/> ②「こう・そう・ちがう」が分かる T：（折り紙で紙飛行機や紙鉄砲を作っているところを見せ、できたら飛ばしたり、音を鳴らしたりする） S：入れて。 T：（折るジェスチャーをしながら）やる？ S：はい。 T：どうぞ（と言って折り紙を手渡す）。 見て、こう。 S：（まねをして折る） ・Tは教えながら「こう」と声を掛け、Sができれば「そう！」違う時は「ちがう」と言い、Sがたくさん聞けるようにする。 ・『日本語学級1』を使い、吹き出しに合う言葉をSが答えることもできる。	20分	○折り紙 ○『日本語学級1』P32、33 ・「できる」の活動で聞いたSができる遊びを教えてもらい、Tからやり方を「こう？」と聞き、Sが「そう」「違う」と答える活動もできる。 ・既習の「見て」、「聞いて」なども活用する。
本時の振り返り ・本時で学習した語彙や表現を復習する。Tが「～できる？」と質問し、Sが答えるなど。	5分	○本時で使用したテキストやイラストなど

メモ